4　たい肥施用量と化学肥料施用量（以下、「施肥量」という。）の計算法

（１）計算に当たっての前提条件

①　たい肥施用量と施肥量は施肥基準に準ずる。

②　施用する３要素の成分量は施肥基準でのたい肥からの成分供給量と施肥量との合計量とする。

③　施用する成分量算出に用いるたい肥の肥料成分含量

施肥基準において施用するたい肥は水分６０％、窒素０．８％、リン酸０．５％、カリ０．８％を想定して、施肥量を示しているが、家畜ふんたい肥を対象としている本ガイドラインでは設定成分量を下表のとおりとする。

窒素	リン酸	カリ
0.8	0.8	0.8

（水分６０％の現物当たり％）

④　たい肥の有効成分量は全量に肥効率を乗じて算出する。

⑤　肥効率は施肥基準に示されている下表の数値を使用する。

但し窒素の肥効率は窒素含量、Ｃ／Ｎ比、季節、作型（露地と施設）等各種の要因で変動することに留意する。

基準肥効率　　(%)

たい肥の種類	窒素	リン酸	カリ
牛ふん	30	60	80
豚ぷん	40	60	80
鶏ふん	50	60	80

（２）計算方法

①　計算に使用する諸元

ア　施肥基準におけるたい肥施用量と化学肥料各成分の施用量

施肥基準のたい肥施用量　　a kg/10a

化学肥料各成分施用量　窒　素　n kg/10a

リン酸　p kg/10a

カ　リ　k kg/10a

イ　施肥基準におけるたい肥と化学肥料の成分合計量

窒　素　（ａ×０．８×肥効率）＋ｎ kg/10a　A

リン酸　（ａ×０．８×肥効率）＋ｐ kg/10a　B

カ　リ　（ａ×０．８×肥効率）＋ｋ kg/10a　C

施肥基準における作物毎のたい肥と化学肥料の成分合計量は表６の（１）、（２）に示した。

②　施肥基準に基づきたい肥を施用した場合の施肥量（化学肥料等の施用量）

窒　素　Ａ－（ａ×使用たい肥成分含量×肥効率）kg/10a

リン酸　Ｂ－（ａ×使用たい肥成分含量×肥効率）kg/10a

カ　リ　Ｃ－（ａ×使用たい肥成分含量×肥効率）kg/10a

＊ 窒素の肥効率は一般的には冬より夏、露地より施設で高くなる。

肥効率は多くの要因で変動するため的確な設定は困難な面もあるが、下表のようにＣ／Ｎと窒素含量から推定することも考えられる。

Ｃ／Ｎ比	10以下	5～15	10～20		20～30		30以上
窒素含有率	2.8以上	1.8～2.8 未満	0.8～1.8 未満	0.5～0.8 未満	0.5～0.8 未満	0.3～0.5 未満	0.3以下
肥効率	40	35	30	25	20	15	10